

苫小牧市多文化共生情報発信業務  
審査要領及び評価基準

1 業務名

苫小牧市多文化共生情報発信業務

2 選定の方法

(1) 選定委員会の設置

企画提案書の審査、評価及び選定は、苫小牧市多文化共生情報発信業務委託業者選定委員会（以下、「選定委員会」という。）を設置して行う。

(2) 審査の流れ

審査は、以下の手順で行う。

なお、参加事業者が4者以上の場合のみ書類審査を実施し、プレゼンテーション審査の対象事業者を3者選定する。参加事業者が3者以下の場合は、書類審査は実施せず、プレゼンテーション審査のみ実施とする。

審査手順	実施者	審査内容
① 参加資格審査	事務局	参加資格の有無を確認
② 書類審査	選定委員会	提案書を基に審査（採点）
③ プレゼンテーション審査 （ヒアリング）	選定委員会	提案内容の事業者プレゼンテーション及び質疑 応答（採点）
④ 採点結果の集計	事務局	プレゼンテーション審査の採点結果を集計
⑤ 受託候補者の特定	選定委員会	採点結果

3 評価の方法

(1) 書類審査の実施

- ① 書類審査は、本プロポーザルへの参加事業者が4者以上の場合に実施するものとし、参加資格確認通知の送付時に書類審査の有無を併せて通知する。
- ② 提案書（企画提案書・事業費経費参考内訳書）の記載内容を選定委員が採点し、採点結果の上位3者をプレゼンテーション審査の対象とする。
- ③ 書類審査の結果は、令和8年3月18日（水）に通知するものとする。
- ④ 評価項目及び配点は、「4評価項目」のとおりとする。

## (2)プレゼンテーション審査（ヒアリング）の実施

- ① ヒアリングは、令和8年3月19日（木）に、苫小牧市役所9階第1委員会室にて非公開で行うものとし、開始時間は別途通知する。
- ② ヒアリングは、1者ずつの呼び込み方式とし、1者の持ち時間は30分以内とする。  
（提案説明20分、質疑応答10分を予定）
- ③ ヒアリングの内容は、提出のあった提案内容に基づくものとする。なお、資料の追加提出は認めない。
- ④ ヒアリングにおいては、企画提案書では説明が難しい点やアピールしたい点について行うこと。この説明においては、プロジェクター及びスクリーンを使用することができる。プロジェクター及びスクリーンは当市で用意するため、使用する際はあらかじめ未来創造戦略室に連絡すること。パソコン等その他機材については提案者が用意すること。
- ⑤ ヒアリングの説明者は補助者を合わせて3名までとする。
- ⑥ オンラインによるヒアリングへの参加を可とするが、希望する場合はあらかじめ未来創造戦略室に連絡すること。
- ⑦ 欠席の場合は、企画提案書の審査、評価及び選定から除外する。
- ⑧ 評価項目及び配点は、「4 評価項目」のとおりとする。

## 4 評価項目

### (1)書類審査の評価

書類審査の評価項目及び配点は以下のとおりとする。

評価項目	評価基準	配点
1 会社概要	会社の規模や事業内容から、業務の実施が可能か。	5
2 業務を実施する運営体制	責任体制が明確になっているか。 従業員数の規模や組織体制から、本事業の実施に対し十分な人員を確保することが可能か。	5
3 過去の業務実績	ウェブサイト構築等にかかる同規模の受託実績を有しているか。	5
4 提案書の記載内容	「提案書作成要領」に定める提案項目が漏れなく記載されているか。 多文化共生の推進等の背景や仕様書の内容を十分に理解した提案内容か。	15
合計		30

(2)プレゼンテーション審査（ヒアリング）の評価

プレゼンテーション審査（ヒアリング）の評価項目及び配点は以下のとおりとする。  
選定委員 5 名が評価項目に沿って採点を行い、合計点が最も高い提案者を受託候補者とする。

評価項目	評価基準	配点
<b>1 業務遂行能力に関する事項</b>		30 点
(1)実施体制・連携体制	本市との連携方法や協議体制（連絡手段、頻度等）が具体的に示されているか。	10 点
(2)運営体制・人員配置	業務実施責任者が明確に示されているか。 業務内容に見合った人員体制（人数・役割分担）が確保されているか。	10 点
(3)情報管理・リスク対応体制	個人情報及び機密情報の管理方法が適切に示されているか。 情報漏洩やシステムトラブル等が発生した場合の対応方針・体制が明確か。	10 点
<b>2 企画提案に関する事項</b>		60 点
(1)事業理解・目的適合性	多文化共生施策の背景や本業務の目的を十分に理解し、外国人を含むすべての市民に配慮した提案となっているか。	10 点
(2)多文化共生に関する専門性・連携	多文化共生や外国人支援に関する知見を有する者（市内事業者・団体・個人等）との連携が具体的に想定されているか。 効果的な助言や協力を得られるか。	10 点
(3)ウェブサイト構築・運用に関する専門性	ポータルサイト構築に関する専門的知見や類似業務の実績を有しているか。 利用者の利便性や、市職員による運用のしやすさに配慮した提案となっているか。	10 点
(4)LINE等のコミュニケーションツールの利便性	LINE等の情報発信及び連絡ツールは、利用者及び市職員の双方にとって利便性が高い提案となっているか。	10 点
(5)ボランティア管理に関する提案力	ボランティア登録及び名簿管理について、LINE 連携サービス等を活用した適切な管理体制が示されているか。 ボランティア種別毎の登録者に対する情報発信など、円滑な連携及び連絡が可能な体制か。	10 点
(6)保守管理・事業継続性	ポータルサイト及び LINE 公式アカウントについて、安定的な運用及び継続的な保守管理が可能な体制、内容となっているか。また、それらにかかる単年度の費用は適正か。	10 点
<b>3 業務委託料の評価</b>		10 点
見積内容の妥当性	見積金額が業務内容に対し適正な水準であるか。	10 点
合計		100 点

## 5 結果通知

苫小牧市多文化共生指針策定支援業務に関する公募型プロポーザル実施要領「15 結果の通知・公表」のとおり